建築に真剣に向き合い知識を深めたい

崇城大学 工学部 建築学科
山田雄大

このたびは、建築積算士補試験の優秀賞をいただきまして、とても光栄に思っております。そのうえ執筆の機会までいただき、このうえなく喜ばしい限りです。ここでは3つのことについて書かせていただきます。

まず、建築に興味を持ったきっかけです。私が建築に興味を持ったのは、幼稚園のときです。あるとき父が何気なくつけていたテレビの番組が、「ビフォーアフター」でした。その中に出てくる建築士の方々は、私に建築の素晴らしさを教えてくれました。幼かったのでその時は、「建築」という言葉ですら聞いたことがありませんでした。しかし分からないながらも、目の前に広がる異次元のような光景に驚き、その魅力に惹かれていったのを覚えております。今になって思えば、設計者の居住する人に対して、生活が楽しくなるような工夫、その土地にある資源を別のものに還元する技術、そして最後に公開するBeforeとAfterの比較に、感動したのだと思っております。大学生になった今でも、人生で一番感動したのはあの瞬間であったといっても過言ではありません。その番組を見た瞬間から私の夢は、建築士に変わり、建築を通して沢山の人を笑顔にしたいと思うようになりました。

次に、資格を取得しようと思った理由です。私は9月に積算の講義を初めて受けました。そのとき担当の先生から積算が建築に関係する人々において、大変重要であることを教えていただきました。その中で「建築生産活動の経済行為を支えるために、お金なしには成立せず、お金の計算が重要であり、それを管理するのが積算である」とおっしゃっていました。その言葉を聞いて、私は大学を通して学んだ設計や施工も、積算が密接に関係しているのだと気づきました。またコスト面から、建築を支える役割を担っていると理解する事が出来ました。さらにもう一つ先生のおっしゃった言葉が、より意欲を掻き立ててくれたのを覚えています。それは「今まで資格試験を受けたことがない人は、これを機に資格を取る楽しさや有意性を感じてほしい」という言葉でした。私は積算を受験するまで資格試験の勉強をしたことがなく、試験を受けるまでとても不安でした。しかしこの初めての資格試験で、良い成績を収めることで、今後、別の資格を取得する意欲が高まると思いました。そのため今まで以上に、妥協せず集中して試験に臨もうと思いました。

次に、講義を受け始めてから試験を終えるまでの感想です。私は1か月前から試験を受けるまでに掲げた目標がありました。それは「平日は必ず問題集の中の問題を500問解く」ということです。私は積算の講義以外にも、3年次後期から新たに学べるほぼ全ての科目を履修していました。そのため学校がある日はほとんど授業で埋まっており、土日は他の講義の課題を終わらせるために時間が必要でした。そして試験勉強を行うときは必ず問題集の半分を解き、終わらない場合は寝る前に時間を割いて、一日を過ごしていました。また専門用語の理解は難しく、覚えるのに苦労しました。しかし試験までに問題集を10回ほど反復して行うことで、確実に覚えてから試験に臨みました。私は自分のため、そして丁寧に分かりやすく熱心に教えてくださった先生のためにも、満点を取ろうと思い試験前日から緊張していたのを覚えています。そして無事試験を終え、そのあと大学の図書館で自己採点をしました。そのときはとても手が震えており、採点が苦痛に思えてなりませんでした。しかし最後の問題に丸がついたとき、積算士補試験を終えた安堵感、そして目的のために自分が一生懸命努力した達成感を感じていました。さらに単に試験を受け、資格をとることだけが私の目的ではなかったことを、自分自身が改めて教えてくれた瞬間でもありました。

最後になりますが、この資格試験で得た知識を活かして、いっそう建築に真剣に向き合い、知識を深めていこうと考えております。また社会に貢献するためにも、建築に関する知識や経験だけでなく人として、性格、身なり、行動共に今後とも精進してまいります。本当にありがとうございました。